

今週のメニュー

■[年頭挨拶](#)

塩ビ工業・環境協会 会長 宇田川 憲一

■[年頭所感](#)

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

■[編集後記](#)

■年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 宇田川 憲一

新年に当たりまして、年頭の所感を述べさせていただきます。

昨年、わが国経済は、中国並びに新興国経済の減速の影響を受けましたが、企業収益及び雇用や所得環境の改善を背景に景気は緩やかな回復基調で推移しました。こうしたなか昨年の塩ビ樹脂は、消費増税の反動の影響が長引き、国内出荷量は、暦年で102万トン程度と前年に比べて若干の減となりそうですが、秋以降は回復基調にあるので年度ベースではもう少し良い数字が期待できそうです。輸出は年初から好調に推移し57万トン程度となり、総出荷量は159万トンと対前年比で15%程度増え、過去五年間では最大となる見込みです。今後、国内の需要回復を確かなものとしていくために、経済重視の政策に期待しております。世界市場は、中国の景気減速、欧州の政治リスクの高まりなどの不安要因はあるものの、米国の住宅市場の回復基調は持続し、インド、中東など新興マーケットが牽引し、塩ビ需要は着実に伸びるものと予想しております。

ここでVECの活動と塩ビ産業の動向について主要な3点を紹介させていただきます。

まず、5回目となったPVCデザインアワード2015です。今回は、デザイナーと製品加工業界が早い段階から協力を組めるように日程を調整し、また、デザイナーへの説明会やクリエイターとの交流など今まで以上に力を入れて進めました。その結果、デザイナーと製品加工企業の協働による製品の応募が倍増し、全体として質が目に見えて高まりました。これまでの入賞作品の商品化に向けた取り組みも進んでおります。商品として磨きをかけ、マーケットに出していくにあたり、国や地方自治体のコンサルティングや助成制度なども活用しようとしております。業界として連携をより一層深め、次のさらなる展開に臨みたいと考えております。



VEC 宇田川会長

賀詞交歓会でご挨拶頂いた
経済産業省 福島審議官

次に、樹脂窓です。昨年この場で、主要サッシメーカーが樹脂窓を主力商品とし、本格的に断熱性能が競われる時代となったことを紹介いたしました。省エネ住宅ポイントなどの政策を追い風に、樹脂窓は好調に実績を伸ばしております。日本サッシ協会と樹脂サッシ工業会で集計している戸建住宅におけるサッシ数量の材質別構成比の比較では、樹脂サッシの割合は2014年度の9.6%から2015年4月-9月半期で12.2%と2.6ポイントの伸びを示しております。窓枠に樹脂を使う窓が、アルミだけの窓を数量的に凌駕するようになりました。温暖化対策はさることながら健康で快適に暮らせる質の良い住宅・建物には必須のアイテムです。窓だけではなく、良質の住宅・建物に貢献できる塩ビ建材の可能性は大きいと考えております。そのポテンシャルを開かせるよう努力を続けて参ります。

三つ目は、リサイクルへの取り組みです。昨年リサイクル支援制度で採択した日本壁装協会の「塩ビ壁紙のリサイクルシステムの開発」は、着実に進展を遂げております。これまで困難と考えられてきた使用済みの複合素材にマテリアルリサイクルの道を切り拓く画期的なものでありますが、これに続くようにテントシートのリサイクルについても実証試験にむけて動いております。世界からも着目され期待を寄せられています。着実に技術開発とリサイクルの仕組み作りを進め、塩ビ製品の優れた環境性能をアピールすると共に世界に範を示して参りたいと思います。



VEC 賀詞交歓会風景

最後に、皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念し年頭の挨拶に代えさせていただきます。

(1月6日開催のVEC賀詞交歓会での、会長年頭挨拶を掲載いたしました。)

■ 年頭所感

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

今年はリオ・デ・ジャネイロでオリンピックが開催され、次の2020年の東京オリンピックのメインスタジアムとなる新国立競技場の建設が始まります。2012年のロンドンオリンピックでは、持続性が追求され、建材からエネルギーの使い方、食べ物、包装容器に至るまで徹底した環境配慮がなされました。また、昨年、パリでは、新たな温暖化対策の枠組みが合意されましたが、その極めて野心的な目標に到達するためにはこれまでの何段も上を行く資源、及びエネルギーの効率的活用が求められます。オリンピックは、そのような取組をデモンストレーションする機会として、リオでも東京でも、開催国が力をいれる場となると思います。

以前にもご紹介しましたが、ロンドンオリンピックにおいては、塩ビ建材が、その環境性能を高く評価され多くの競技場で使われました。仮設構造物として使われたものは、その後、再利用・リサイクルされています（文末のリンクの冊子を参照下さい）。この取組は、東京オリンピックの開催に携わる方々もよく承知されています。東京オリンピックでは、欧州に負けないキメの細かなリサイクルと優れた技術を持つ日本ならではの取組を世界に発信していくことが期待されます。

断熱への取組が、省エネに留まらず生活の質を高める意味で必須であるとの認識が高まってきたこともよい進展だと思います。これまで、主として冬が寒い地域のものを受け取られていた高断熱の樹脂窓が、関西以西でも注目されるようになってきました。高齢化の進展の中で、ヒートショックによる事故・疾病を避けるだけでなく、心身共に住まい心地が良い環境の中でより創造的に生活を楽しめる世に変えて行ければと思います。

TPP の合意が象徴するグローバル化の進展の中で、より付加価値の高い製品を生み出して競争力を高めることは継続的な課題となります。2011 年以來取り組んできた PVC Design Award は、昨年は、塩ビ素材の特長を活かしより完成度の高い作品が生まれるように、デザイナーとのコラボが早い段階から進むよう努めました。おかげさまでコラボ製品の応募が増え、大賞に選ばれたテトラサーバーはまさにこのような期待を具現化する事例となりました。商品化に繋げて行くには、さらに製品の完成度や信頼性を高める必要があります、それぞれの製品を手がける企業が主体的に取り組まねばなりません。大学や公設試と協働し、国や地方自治体の様々な制度を上手く活用できる事例が多くありそうです。成功事例を作っていくことは今年以降の課題のひとつです。日本の Design Award に倣い、昨年、お隣の韓国が、リサイクルをテーマとした Design Award を開催しました。互いに良いところを学び競いながら塩ビ製品の可能性をさらに広げて行ければと思います。

末筆ながら、皆様の益々のご健勝、ご発展を祈念いたします。

(参考) [塩ビ製品による持続的成長への貢献の可能性](#)

■ 編集後記

あけましておめでとうございます。

今年は休みが少なく、あつと言う間の正月休みだったという方も多いかと思います。

私事ですが昨年 12 月に足の小指を骨折してしまい、約 1 ヶ月松葉つえを使っての不自由な生活を過ごしていました。でも、そんな生活でも 1 つ良かった点があります。それは多くの若者たちの優しさに触れることが出来たことです。電車の優先席の近くに松葉つえで立っていても 30 代以上の方から席を譲って貰うことは一度もありませんでしたが、20 台前後の多くの若者からは優先席とか関係なく席をゆずって頂いたり、声を掛けて下さいました。厳しいこれからの時代でも、このような若者たちがいる限り“日本の未来は明るい！”と感じた瞬間でした。(鷹山)

1/6 の賀詞交歓会には、約 400 名の皆様にご参加いただきました。皆様が笑顔でご歓談されておられましたことをたいへんうれしく思っております。今年も事務局一同で楽しいメルマガをお届けいたします。お楽しみ下さい。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601

■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp>

■E-MAIL info@vec.gr.jp